

本学薬学部 青江麻衣講師(現兵庫医科大学)、江崎誠治准教授らの研究成果が、このほど薬学系科学雑誌「Pharmacy」誌に掲載されました。

大阪大谷大学、兵庫医科大学、和歌山県立医科大学の研究グループは、大阪大谷大学薬学部6年生における知識習得を目的とする演習授業を題材として、授業実施方法と学生の意識ならびに学習効果との関連を解析しました。コロナ禍で急速に普及している同時双方向型の遠隔授業(オンライン型授業)と従来からの対面型授業に対する学生の志向と、コミュニケーション関連における意識調査を行った結果、オンライン志向の学生グループと対面志向の学生グループでは、教員に対する質問のし易さおよび友人や教員とのコミュニケーションのし易さに対する意識が異なることが分かりました。一方、両学生グループについて、演習授業受講前後の模擬試験の成績を評価した結果、対面志向とオンライン志向の学生では同等の得点上昇が見られたため、演習授業による学習効果は受講者のオンライン授業に対する意識に左右されないことが明らかになりました。本研究を通じてオンライン型授業の最適化に向けた貴重な知見を得ることができました。この研究成果は薬学系科学雑誌「Pharmacy」誌に掲載されました。本学の著者は大阪大谷大学薬学部青江麻衣講師(現兵庫医科大学薬学部 特命准教授)、江崎誠治准教授、池尻昌宏教授、伊藤卓也教授、長井克仁准教授、初田泰敏教授、広川美視准教授、西中徹教授、責任著者は見坂武彦准教授です。

掲載された論文は以下の通りです。

Aoe, Mai^{1,2}, Seiji Esaki¹, Masahiro Ikejiri¹, Takuya Ito¹, Katsuhito Nagai¹, Yasutoshi Hatsuda¹, Yoshimi Hirokawa¹, Tomohisa Yasuhara³, Takehiko Kenzaka^{1*}, and Toru Nishinaka¹.

"Impact of Different Attitudes toward Face-to-Face and Online Classes on Learning Outcomes in Japan" 2023. Pharmacy 11, no. 1: 16.

<https://doi.org/10.3390/pharmacy11010016>

¹ Faculty of Pharmacy, Osaka Ohtani University, 3-11-1 Nishikiori-kita, Tondabayashi 584-8540, Osaka, Japan

² School of Pharmacy, Hyogo Medical University, 1-3-6 Minatojima, Chuo-ku, Kobe 650-8530, Hyogo, Japan

³ School of Pharmacy, Wakayama Medical University, 25-1 Shicibancho, Wakayama 640-8156, Wakayama, Japan

*Author to whom correspondence should be addressed. kenzat@osaka-ohtani.ac.jp (見坂武彦)